様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：３３９２９
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３３９

研究課題名（和文）十九世紀アメリカにみる女性思想家・作家たちによる環大西洋交流の社会的・文化的影響

研究課題名（英文）The Social and Cultural Effects of Women Thinkers and Writers on 19th Century America

研究代表者
倉橋　洋子（Kurahashi, Yoko）

東海学園大学・経営学部・教授

研究者番号：１００８２３７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,900,000円、（間接経費）　1,170,000円

研究成果の概要（和文）：19世紀の英米の女性作家、ハリエット・マーティノー、ピーボディ姉妹、リディア・チャイルド、ハリエット・ジェイコブズ、マーガレット・フラーの環大西洋交流により得られた知見で編まれた著作が、19世紀アメリカの奴隷制、教育、文化等に与えた影響を研究した。
主たる研究成果はアメリカの社会改革、特に奴隷制を扱っている『越境する女―19世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』（2014）を編著者として上梓した。また19世紀に出版、絵画、教育に挑戦してアメリカのロマンティシズムを点火したピーボディ姉妹の半生記、メーガン・マーシャル著『ピーボディ姉妹』(2005)を共訳した。さらに共著を出版し、論文を雑誌にて発表した。

研究成果の概要（英文）：The 19th century women thinkers and writers, Harriet Martineau, Peabody Sisters, Lydia Maria Child, Harriet Jacobs, and Margaret Fuller extended their knowledge and way of thinking through transatlantic exchange. The study was how their books influenced slavery, education and culture and so on in 19th Century America.
The main study outcome was the publication by co-authors and editors of "Women Transgressing Borders: The Challenges by 19th Century American Women Writers" (2014) which deals with American social reform, especially slavery by American women writers. Also translated by co-translators was "Peabody Sisters"(2005) by Megan Marshall which describes the half-lives of those who challenged translation, publishing books, drawings and education in the 19th century, and ignited American romanticism. Moreover, books were also co-authored and papers were published in academic magazines.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：環大西洋交流　女性思想家・作家　19世紀アメリカ社会　奴隷制　女性の権利　中南米　教育　旅行記

１．研究開始当初の背景

（１）19 世紀英米の女性思想家や女性作家に関する従来の作品研究は、フェミニズム批評やジェンダー研究から分析するものが顕著であった。当時の女性の活躍を取り上げた先行研究は国内外で発表されており、文学に限っても、女性作家を紹介したニナ・ベイムの『アメリカ女性作家と歴史書 1790-1860』(1995)から、多様な目的をもって海を渡った女性たちを論じた『トランスアトランティック・ウーマン―19 世紀アメリカ女性作家と英国』（2012）まで様々に存在する。

一方、英米の女性思想家・作家の海外との交流やそれにより得た知見をもって当時の社会問題を扱っている作品も存在している。また、これらの思想家・作家や作品は 19 世紀アメリカの奴隷制や先住民の問題などに代表される社会問題に影響を与えてきた。ところが、彼女たちの環太平洋交流や彼女たちの功績はともすると看過されがちであった。

（２）　具体的には、英米の女性思想家・作家のうち、ハリエット・マーティノー、ピーボディ姉妹、リディア・マライア・チャイルド、ハリエット・ジェイコブズ、マーガレット・フラーらは、環大西洋交流や、当時の文人、ハリエット・ビーチャー・ストウ、ラルフ・ウォルドー・エマソン、ブロンソン・オルコット、ナサニエル・ホーソーン等との交流を通して、19 世紀アメリカ社会に影響を与えた。しかし、彼女たちの社会的・文化的影響に関する研究は希少であった。

（３）　そこで、本件研究では従来あまり取り上げられてこなかったが、社会的影響力を持っていると思われるマーティノー、ピーボディ姉妹、チャイルド、ジェイコブズ、フラー等や彼女たちの作品を取り上げることにした。その詳細な理由と研究の動向は以下のようである。

イギリスでは奴隷制が廃止された 1833 年以降、女性運動家はアメリカの奴隷制廃止を次の目標とし、アメリカ人女性との連携を深め環大西洋の奴隷解放運動を展開した。マーティノーは 1834 年から 3 年間アメリカ滞在中に奴隷解放運動家と交流を重ね、アメリカの奴隷解放に貢献したが、従来あまり研究されてこなかった。

ピーボディ姉妹の長女のエリザベスは超絶主義の機関誌ダイアル発行や奴隷廃止運動に関わり、次女のメアリーと三女のソファイは 1830 年代にキューバに滞在して奴隷制を実体験している。メアリーは『フアニータ』(1887)においてキューバの奴隷制の実態を描いており、注目を浴び始めていた。ソファイは、「キューバジャーナル」（1981）や、英国やイタリア滞在中に記したノートにおいて旅行作家としての素養を示していることが注目され始めていた。

チャイルドは、先住民を描いた作品で知られているが、『ニューヨークからの手紙』（1843－45）において奴隷制に留まらず、多くの社会問題を抱えたアメリカの都市に独特の戦略でメスを入れて読者に提示しているが、これに関する研究は少なかった。

また、ジェイコブズの『自伝』（1861）は、アンテベラム期の主要文学作品の一つに数えられている。しかし、本書がイギリス人を意識し、タイトルを一部変更して出版していたこと、自伝執筆後も、独自の方法でイギリス人にメッセージを送り、アメリカの奴隷救済のための援助を求めていたことにはあまり関心が向けられていなかった。もっとも、これらの活動は、イェン・ファーガン・イェリンの『ハリエット・ジェイコブズ・ファミリー・ペーパー』（2008）を通して知ることができるが、この資料をもとにした本格的な議論は起きていなかった。

フラーの『19 世紀の女性』に関する研究は多数なされてきたが、その後フラーが『トリビューン』紙の特派員としてヨーロパに渡り、そこから送ったヨーロッパ報告に関する研究はまだ稀有であった。

２．研究の目的

19 世紀アメリカ社会は産業革命により男女の分業や新興中産階級の登場を経験するが、奴隷制、女性の権利、教育、及び先住民の問題等の社会問題を内包していた。このような時期に環大西洋交流によりイギリスやヨーロッパの思想をアメリカにもたらした英米の女性思想家・女性作家たち、ハリエット・マーティノー、マーガレット・フラー、ピーボディ姉妹、リディア・マリア・チャイルド、キャサリン・セジウィック等は、19 世紀アメリカ社会の改革に多大な貢献をした。本研究は、彼女たちの環大西洋交流が 19 世紀アメリカ社会に与えた社会的・文化的影響を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

英米の女性作家・思想家の作品、伝記、関連書籍を中心に研究し、また彼女たちの伝記や書簡にも注目して、彼女たちの環太平洋交流等が作品にどのように描かれ、それが他の作家や思想家、アメリカ社会に与えた影響を研究した。研究対象は、彼女たちと交流のあった男性思想家・作家の作品等であった。そのためにコンコード、ボストン、ニューヨーク、さらにロンドンの図書館を訪問して資料を参照し、収集した。

４．研究成果

（１）　主たる研究成果は、『越境する女―19 世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』（開文社、2014）を監修・編著者として上梓したことである。本書は従来あまり取り上げられてこなかった作家を取り上げ、彼女たちがヨーロッパ、中米、東洋、リベリアに精神的・物理的に越境し、従来の枠組みに囚われず、異文化の思想の影響を受けたこと、さらに広い視野でアメリカを客観的に見て社会改革するために、いかに果敢に挑戦したかを研究している。先駆者としての彼女たちの挑戦は、人種や性差、階級、宗教的信条等に関係なく、

自由平等への最初の一歩となったことを論証している。
（２）メーガン・マーシャル著の *The Peabody Sisters* (2005)を『ピーボディ姉妹―アメリカ・ロマン主義に火をつけた三人の女性たち』（南雲堂、2014）として共同で翻訳出版した。本書は、様々な制約のある 19 世紀に積極的に学びの機会を捉え、翻訳、出版、絵画、教育等に挑戦して 19 世紀社会に影響を与えたピーボディ姉妹の半生記である。彼女たちの活躍のみならず、彼女たちの当時の文人、ナサニエル・ホーソーン、ラルフ・ウォルドー・エマソン、エラリー・チャニング、ホレス・マン、ブロンソン・オルコット等との交流は、19 世紀アメリカの文化・思潮・制度などの発展を研究するうえで参考に値する。
（３）研究対象の作家や思想家、マーティノー、ピーボディ姉妹、チャイルド、ハリエット・ジェイコブズ、フラー等の作品に関する具体的な研究内容は、次のようである。
　ピーボディ姉妹のメアリーに関して、ホーソーンとの関係や中南米の視座から研究した。1930 年代にキューバに渡航したメアリーのキューバでの奴隷制の体験に基づいて執筆された『フアニータ』を同時代のキューバ文学やホーソーンの短編小説と比較した。本書ではメアリーの道徳的改革者・教育者としての信念等が反映されていることを明らかにし、また本書で描かれた「隷属性」のホーソーンの短編への影響の可能性を示唆した。
　ピーボディ姉妹のソファイアに関して、彼女がメアリーとキューバ滞在中に書いた手紙をまとめた「キューバジャーナル」の特質を、ネイチャーライティング、風俗小説、奴隷制の目撃記録の面から論じ、作家ホーソーンの道徳的な妻という従来の人物像とは異なるソファイア像を示した。さらに、女性作家の環大西洋を中心としたトランスナショナルな活躍に焦点を当て、海を越えた思想的影響関係や、旅や移動の表象を中心に調査した上で、英国とイタリアに渡航したソファイの記したノートから旅行記作家としてのソファイを再評価し、新たなアメリカ・ルネサンス研究の可能性を示した。
　チャイルドに関して、『ニューヨークからの手紙』を中心に、貧困や奴隷制に目を向けたチャイルドとチャールズ・ディケンズとを比較している。女性が都市を自由に歩くことに制約のあった時代に街や郊外を取材し、貧困や奴隷制といった社会矛盾に読者の目を向けさせ、共感を集めていくチャイルドと、同時期にイギリスから渡米し、特権的にニューヨークを見て回ったチャールズ・ディケンズの手記とを比較して両者の視点や手法の違いを考察した。
　マーティノーに関して、アメリカの奴隷制反対運動に共鳴したイギリス人女性作家のマーティノーに注目し、『時の人』(1841)が、ハイチ革命の英雄を主人公にした奴隷制批判の小説であると同時に、女性の自立をテーマにしたフェミニズムの小説でもあることを読み解いた。
　ジェイコブズに関して、トランスアトランティック・アボリショニズムの観点からジェイコブズの『自伝』と手紙における戦略を考察した。逃亡奴隷のまま英国に渡ったジェイコブズが、英米の奴隷解放運動のネットワークの助けを借りて出版した『自伝』と手紙には奴隷救済を世に広くアピールする巧妙な戦略があることを読み取っている。
　フラーに関して、ヨーロッパからの報告、特にイタリアからの報告に焦点をあててフラーの改革精神や建国の理想を喪失したアメリカの批判を読み取っている。
　さらに、女性作家の当時の文化的影響として、女性作家による奴隷制反対の影響をホーソーンの作品に読み取った。ホーソーンは奴隷運動に直接参加はしなかったが、奴隷制を隷属状態のメタファーとして作品に描いていることを『ブライズデイル・ロマンス』（1852）を中心に論じた。
　また、米国の元男性奴隷レデリック・ダグラスが、自らの体験をもとに執筆した「ヒロイック・スレイヴ」(1852)に注目し、奴隷制の矛盾を読者に理解させる彼の巧妙な戦略を読み解いた。ダグラスはこの作品によって、それまで彼に従属を強いてきた白人の奴隷解放運動家から物理的、経済的、精神的独立を果たしたといえる。
　（４）今後、19 世紀アメリカ社会の社会的問題と文学作品との関連を発展させ、19 世紀における知的コミュニティーの形成および、彼らと奴隷制反対運動等との関連を、文学作品等を通して考察する予定である。また、英米の女性作家によるセンセーショナルノベルで、環大西洋交流の影響を反映した作品に注目し、イギリス人作家メアリー・エリザベス・ブラッドンの『オクトルーン』（1861－62） などの研究を予定している。さらに、ジェイムズ・フェニモア・クーパーやハリエット・ビーチャー・ストウ等のヨーロッパ旅行記も取り上げ、様々な作家たちの旅行記に見られるヨーロッパや自国アメリカを見る視点や、とりわけその語りの相違などの分析を行う予定である。
５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計　２　件）
① 倉橋洋子「『ブライズデイル・ロマンス』―一人の奴隷解放物語」『東海学園大学研究紀要』第 19 号、平成 26 年、pp.33-45
② 倉橋洋子「『フォアニータ』にみる 19 世紀のキューバにおける奴隷制とカースト」『東海学園大学研究紀要』第 18 号　平成 25 年、pp.67-79
〔学会発表〕（計　11　件）
① 倉橋洋子「ホーソーンと知的コミュニティー―*Our Old Home* のピアスへの献辞に

関して」日本アメリカ文学会中部支部第31回大会シンポジウム「知のコミュニティーの形成―アメリカン・ルネサンスを中心に」、平成26年4月20日、中京大学

② 辻祥子「B’hoys & G’hals 物語とMelville: １９世紀ニューヨークにおける階級と文学の関係」日本アメリカ文学会第52大会シンポジウム「初期アメリカ文学とニューヨーク」平成25年10月13日、明治学院大学

③ 辻祥子「水夫と黒人環境」エコクリティシズム研究学会第 26 回大会シンポジウム「メルヴィル環境」、平成25年8月10日、広島修道大学

④ 辻祥子「水平と奴隷の物語：『ホワイト・ジャケット』に見られるカウンターナラティヴの限界」中・四国アメリカ文学会第42回大会シンポジウム「カウンターナラティヴから読むアメリカ文学」平成25年6月9日、松山大学

⑤ 城戸光世「カウンターナラティヴから読むアメリカ文学」中・四国アメリカ文学会第42回大会シンポジウム「カウンターナラティヴから読むアメリカ文学」平成25年6月9日、松山大学

⑥ 倉橋洋子「メアリーのキューバ体験にもとづく『フォアニータ』について」日本ナサニエル・ホーソーン協会第31回全国大会ワークショップ「ピーボディ姉妹とホーソーン―ヨーロッパと中南米への視座」平成24年5月25日、日本大学

⑦ 城戸光世「*Notes in England and Italy*――旅行記作家としてのSophia Peabody Hawthorne再評価」日本ナサニエル・ホーソーン協会第31回全国大会ワークショップ「ピーボディ姉妹とホーソーン―ヨーロッパと中南米への視座」平成24年5月25日、日本大学

⑧ 倉橋洋子「*The Blithedale Romance*再読―一つの奴隷解放の物語」日本ナサニエル・ホーソーン協会中部支部研究会，平成25年5月6日、東海学園大学

⑨ 辻祥子「ハリエット・ジェイコブズとイギリスの接点：トランスアトランティック・アボリショニズムの潮流から」中・四国アメリカ文学会冬季大会、平成24年１２月１日、別府大学

⑩ 辻祥子「『白鯨』と奴隷制：逃亡奴隷法とキューバ併合問題の影」中・四国アメリカ学会第４０回記念大会、平成２４年10月17日、広島大学東千田キャンパス

⑪ 辻祥子 「フェダラーは逃亡奴隷か？『白鯨』に描かれるもう一つの旅」中・ 四国アメリカ文学会大会、平成２３年６月１１日、山口大学

〔図書〕（計 7 件）

① 倉橋洋子、辻祥子、城戸光世編他、開文社『越境する女―19世紀アメリカ女性作家たちの挑戦』平成26年、367

② 倉橋洋子、辻祥子、城戸光世他訳、南雲堂『ピーボディ姉妹―アメリカ・ロマン主義に火をつけた三人の女性たち』メーガン・マーシャル著、平成26年、540

③ 辻祥子他、音羽書房鶴見書店『越境する英米文学―人種・階級・家族』（松山大学言語・情報研究センター叢書 第７巻)、平成26年、202

④ 城戸光世他、開文社『アメリカン・ルネサンス――批評の新生』平成25年、446

⑤ 城戸光世他、彩流社『環大西洋の想像力―越境するアメリカン・ルネサンス文学』、平成25年、367

⑥ 城戸光世他、英宝社『ロマンスの迷宮ーホーソーンに迫る 15 のまなざしー』平成25年、304

⑦ 辻祥子、城戸光世他、音羽書房鶴見書店『カウンターナラティヴから語るアメリカ文学』、平成24年、384

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

倉橋洋子 （KURAHASHI, Yoko）
東海学園大学・経営学部・教授
研究者番号：10082372

(2)研究分担者

辻祥子 （TSUJI, Shoko）
松山大学・人文学部・教授
研究者番号： 60299360

城戸光世 （KIDO, Mitsuyo）
広島大学・総合科学研究科・准教授
研究者番号：10351991

(3)連携研究者

（ ）

研究者番号：